Canon

EOS Kiss X70



使用説明書（基本編）

本書は、簡単な撮影ができるまでの基本的な操作方法や機能を説明した「基本編」です。より詳しい内容については、カメラ使用説明書 CD-ROM に収録されている「カメラ使用説明書」を参照してください。

J

はじめに

EOS Kiss X70 は、有効画素数約1800万画素・高精細CMOSセンサー、DIGIC 4、高精度・高速9点AF、最高約3.0コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影、フルハイビジョン（Full HD）動画撮影機能を搭載したデジタル一眼レフカメラです。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（140～142ページ）、および『取り扱い上のご注意』（14、15ページ）をお読みください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

試し撮りと撮影内容の補償について

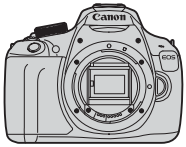
撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ
（アイカップ、
ボディキャップ付き）



電池
バッテリーパック
LP-E10
（保護カバー付き）



充電器
バッテリーチャージャー
LC-E10



ワイドストラップ

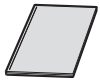


インターフェースケーブル

※ 使用説明書とCD-ROMについては、次ページを参照してください。
※ レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
※ レンズキットの種類により、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
※ 付属品は、なくさないように注意してください。

使用説明書と CD-ROM について

使用説明書は、「冊子」と「電子マニュアル」（PDF形式／CD-ROMに収録）で構成されています。**冊子は「基本編」です。より詳しい内容は、カメラ使用説明書CD-ROMを参照してください。**



カメラ使用説明書
（基本編）



カメラ使用説明書CD-ROM
下記の使用説明書（PDF形式）が収録されています。
・カメラ使用説明書
・クイックガイド
カメラ使用説明書CD-ROMの見かたについては、130ページを参照してください。



EOS DIGITAL Solution Disk（ソフトウェアCD-ROM）
画像編集などのソフトウェアとソフトウェアの使用説明書（PDF形式）が収録されています。
ソフトウェアの概要やパソコンへのインストール方法については、134～136ページを参照してください。
ソフトウェア使用説明書の見かたについては137ページを参照してください。

使用できるカードについて

カードの容量に関係なく、下記のカードが使用できます。**なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします**（p.44）。

・SDメモリーカード
・SDHCメモリーカード
・SDXCメモリーカード

UHS-I対応のカードも使えますが、このカメラはUHS-I規格に対応していないため、書き込み/読み取り速度は最高でもSDスピードクラス10相当になります。

動画が記録できるカードについて

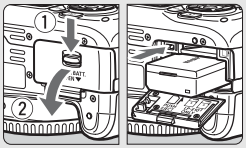
動画を撮影するときは、大容量で、SDスピードクラス6「CLASS 6」以上のカードを使用してください。

- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影中に静止画を撮影するときは、さらに高速なカードが必要です。
- カードの書き込み / 読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

すぐ撮影するには

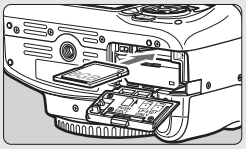
1



電池（バッテリー）を入れる（p.26）

●電池の充電方法については 24 ページを参照してください。

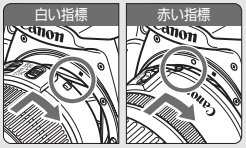
2



カードを入れる（p.26）

●カードの表を、カメラの背面側にして差し込みます。

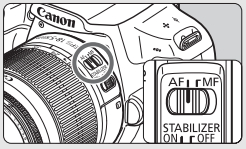
3



レンズを取り付ける（p.34）

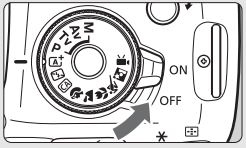
●レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせて取り付けます。

4



レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.34）

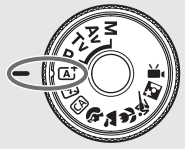
5



電源スイッチを〈ON〉にする（p.29）

●液晶モニターに日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、31 ページを参照してください。

6



モードダイヤルを〈A⁺〉（シーンインテリジェントオート）にする（p.50）

●撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

7



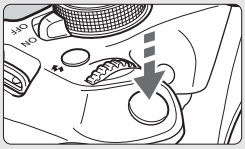
ピントを合わせる（p.39）

●ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。

●シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

●必要に応じて内蔵ストロボが上がります。

8



撮影する（p.39）

●さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9



撮影した画像を確認する（p.110）

●撮影した画像が液晶モニターに2秒間表示されます。

●〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.67）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』（p.87）を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.67）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.108）を参照してください。

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

〈 〉 ：電子ダイヤルを示しています。

〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉 ：〈✥〉十字キーの上下左右ボタンを示しています。

〈SET〉 ：設定ボタンを示しています。

⏱4／⏱6／⏱10／⏱16 ：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラに使われている絵文字を使用しています。

MENU ：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用 ：ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン（p.20）限定で使用できる機能であることを示しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

：補足説明や補足事項を記載しています。

：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

? ：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈**ON**〉になっていることを前提に説明しています（p.29）。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II レンズを取り付けた状態で説明しています。

章目次

デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方は、1章、2章までの説明で、このカメラの基本的な操作・撮影方法がわかるようになっています。

	はじめに	2
1	撮影前の準備と操作の基本	23
2	かんたん撮影と画像確認	49
3	カメラまかせから一歩進んだ撮影	69
4	もっとカメラを使いこなす	81
5	液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）	87
6	動画を撮影する	97
7	画像の再生	103
8	資料	109
9	使用説明書（CD-ROM ）の見かた／ パソコンに画像を取り込む	129

目　次

はじめに　2

カメラと主な付属品 3
使用説明書と CD-ROM について 4
使用できるカードについて 5
すぐ撮影するには 6
本使用説明書の表記について 8
章目次 9
取り扱い上のご注意 14
各部の名称 16

1　撮影前の準備と操作の基本　23

電池を充電する 24
電池とカードを入れる／ 取り出す 26
電源を入れる 29
日付／時刻／エリアを設定する 31
表示言語を選ぶ 33
レンズを取り付ける／取り外す 34
レンズの手ブレ補正機能について 37
撮影の基本操作 38
Q 撮影機能のクイック設定 40
MENU メニュー機能の操作と設定 42
カードを初期化する 44
液晶モニターの表示切り換え 46
機能ガイドについて 47

2 かんたん撮影と画像確認 49

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）.....50
全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）.....53
ストロボが使えない場所で写す 55
クリエイティブオートで撮る 56
人物を写す 59
風景を写す 60
花や小物を大きく写す.....61
動きのあるものを写す.....62
夜景と人物を明るく写す 63
クイック設定について 65
画像を再生する 67

3 カメラまかせから一歩進んだ撮影 69

P: プログラム AE 撮影 70
記録画質を設定する 71
ISO: 明るさに応じて感度を変える（ISO 感度）.....73
被写体に最適な画像特性を選ぶ（ピクチャースタイル）.....74
AF: ピント合わせの動作を変える（AF 動作）.....75
ピントを合わせる枠を選ぶ（AF フレーム）.....76
ピントが合いにくい被写体.....77
MF: 手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）.....77
連続撮影する.....78
セルフタイマー撮影.....79
内蔵ストロボを使って撮る 80

4 もっとカメラを使いこなす 81

Tv: 被写体の動きを表現する 82
Av: ピントの合う範囲を変える 83
M: 露出を自分で決めて撮る 84
自分の好みに明るさを調整する 85
WB: 明かりにあわせて撮影する（ホワイトバランス） 86

5 液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影） 87

液晶モニターを見ながら撮影する 88
AF でピントを合わせる（AF 方式） 91
MF：手動でピントを合わせる 96

6 動画を撮影する 97

動画を撮影する 98
動画記録サイズの設定 100

7 画像の再生 103

見たい画像を素早く探す 104
拡大して見る 105
動画を再生する 106
消去する 108

8 資料 109

普段使う上で便利な機能.....110
撮影直後の画像表示時間を設定する 110
電源が切れるまでの時間を設定する 110
カメラの機能設定を初期状態に戻す 111
液晶モニターの消灯 / 点灯の設定 114
故障かな？と思ったら.....115
エラー表示.....127

9 使用説明書（CD-ROM）の見かた／パソコンに画像を取り込む 129

カメラ使用説明書 CD-ROM の見かた.....130
パソコンに画像を取り込む.....132
ソフトウェアの概要 134
ソフトウェアのインストール.....136
ソフトウェア使用説明書.....137
安全上のご注意 140

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などで内蔵ストロボやミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。

- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

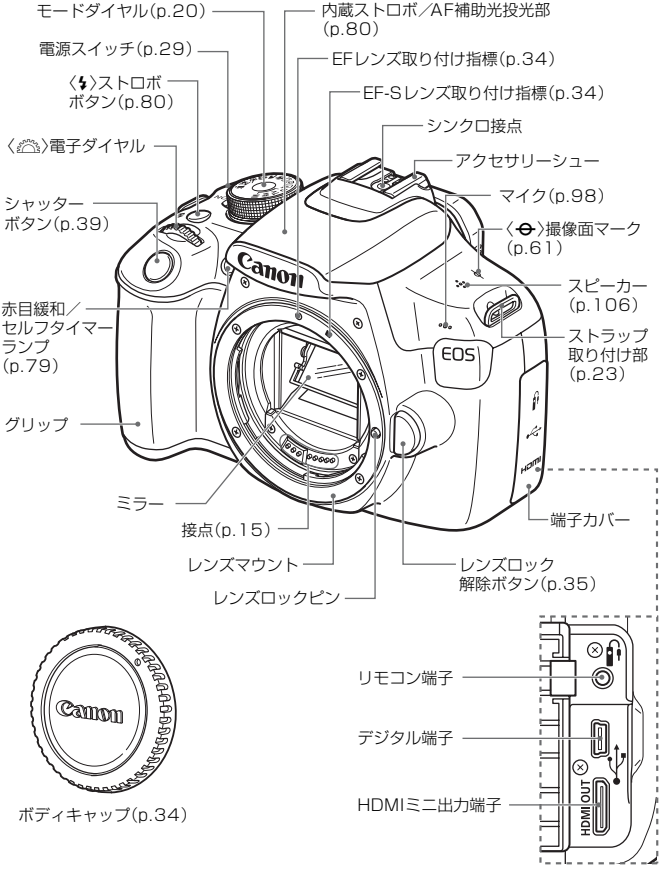
レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

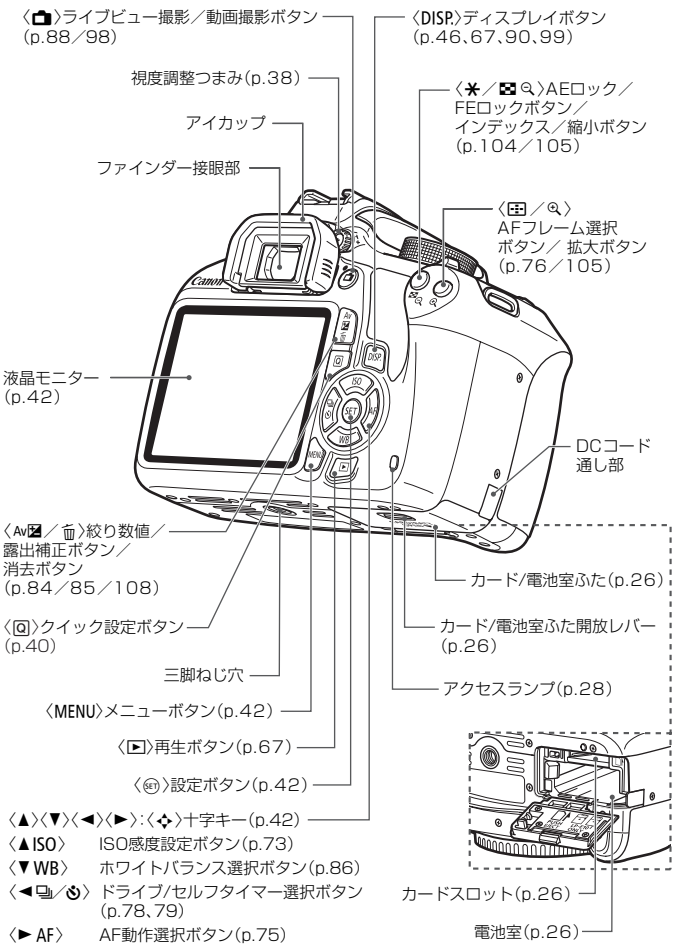


撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

各部の名称


モードダイヤル(p.20)
内蔵ストロボ／AF補助光投光部(p.80)
電源スイッチ(p.29)
EFレンズ取り付け指標(p.34)
〈ϟ〉ストロボボタン(p.80)
EF-Sレンズ取り付け指標(p.34)
シンクロ接点
〈電子ダイヤル
アクセサリーシュー
シャッターボタン(p.39)
マイク(p.98)
〈⊖〉撮像面マーク(p.61)
スピーカー(p.106)
赤目緩和／セルフタイマーランプ(p.79)
ストラップ取り付け部(p.23)
グリップ
端子カバー
ミラー
接点(p.15)
レンズマウント
レンズロック解除ボタン(p.35)
レンズロックピン
リモコン端子
デジタル端子
HDMIミニ出力端子
HDMI OUT
ボディキャップ(p.34)


〈📷〉ライブビュー撮影／動画撮影ボタン (p.88／98)
〈DISP.〉ディスプレイボタン (p.46、67、90、99)
視度調整つまみ(p.38)
〈✱／⊠🔍〉AEロック／FEロックボタン／インデックス／縮小ボタン (p.104／105)
アイカップ
ファインダー接眼部
〈⊞／🔍〉AFフレーム選択ボタン／拡大ボタン (p.76／105)
液晶モニター (p.42)
DCコード通し部
〈Av⊠／🗑〉絞り数値／露出補正ボタン／消去ボタン (p.84／85／108)
カード/電池室ふた(p.26)
〈Q〉クイック設定ボタン (p.40)
カード/電池室ふた開放レバー (p.26)
三脚ねじ穴
アクセスランプ(p.28)
〈MENU〉メニューボタン(p.42)
〈▶〉再生ボタン(p.67)
〈SET〉設定ボタン(p.42)
〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉:〈✣〉十字キー(p.42)
〈▲ISO〉 ISO感度設定ボタン(p.73)
〈▼WB〉 ホワイトバランス選択ボタン(p.86)
〈◀🖳/⏲〉 ドライブ/セルフタイマー選択ボタン (p.78、79)
〈▶AF〉 AF動作選択ボタン(p.75)
カードスロット(p.26)
電池室(p.26)

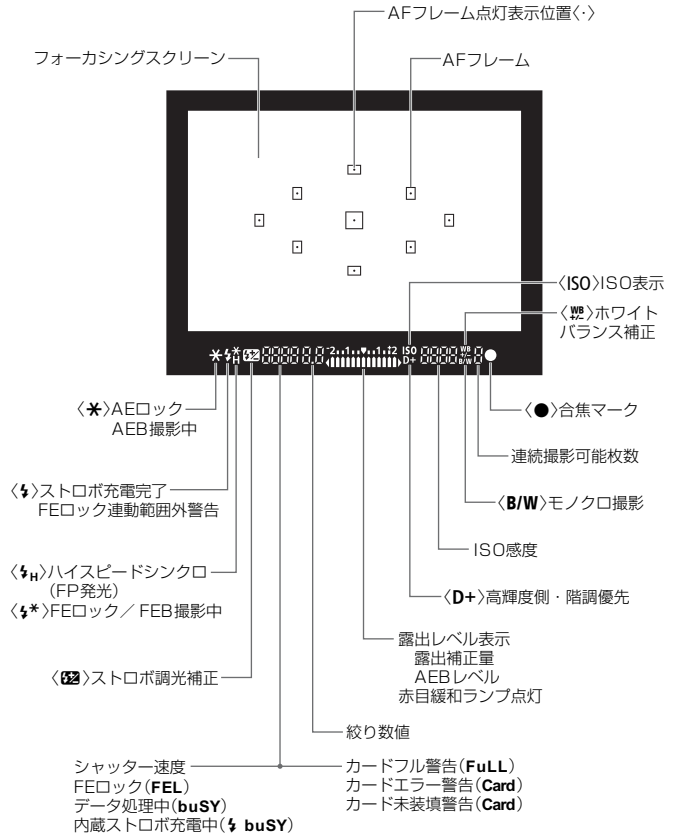
撮影機能の設定状態（応用撮影ゾーン時／p.20）



- 電子ダイヤルガイド(p.81)
- シャッター速度
- 絞り数値
- 撮影モード
- 露出レベル表示
  - 露出補正量(p.85)
  - AEBレベル
- オートライティングオプティマイザ
- ISO感度(p.73)
- 高輝度側･階調優先
- ピクチャースタイル(p.74)
- ストロボ調光補正
- 外部ストロボ調光補正
- AF動作(p.75)
  - **ONE SHOT**：ワンショットAF
  - **AI FOCUS**：AIフォーカスAF
  - **AI SERVO**：AIサーボAF
  - **MF**：マニュアルフォーカス
- ストロボアップ(p.41)
- 記録画質(p.71)
  - **L** ラージ／ファイン
  - **L** ラージ／ノーマル
  - **M** ミドル／ファイン
  - **M** ミドル／ノーマル
  - **S1** スモール1／ファイン
  - **S1** スモール1／ノーマル
  - **S2** スモール2(ファイン)
  - **S3** スモール3(ファイン)
  - RAW+**L** ロウ+ラージ／ファイン
  - RAW ロウ
- クイック設定マーク(p.40、65)
- 電池チェック(p.30)
- ホワイトバランス(p.86)
  - AWB オート
  - 太陽光
  - 日陰
  - くもり
  - 白熱電球
  - 白色蛍光灯
  - ストロボ
  - マニュアル
- 撮影可能枚数
- WBブラケティング時の撮影可能枚数
- セルフタイマー作動表示
- ホワイトバランス補正
- WBブラケティング
- 測光モード
  - 評価測光
  - 部分測光
  - 中央部重点平均測光
- ドライブ/セルフタイマー(p.78、79)
  - 1枚撮影
  - 連続撮影
  - セルフタイマー：10秒
  - セルフタイマー：2秒
  - セルフタイマー：連続撮影
- GPS接続表示
- Eye-Fi通信状態

状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示



状況に応じた部分のみ表示されます。

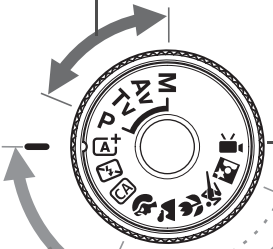
モードダイヤル

モードダイヤルには、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンと、動画撮影モードがあります。

応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

- **P** ：プログラムAE（p.70）
- **Tv** ：シャッター優先AE（p.82）
- **Av** ：絞り優先AE（p.83）
- **M** ：マニュアル露出（p.84）



かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

- **シーンインテリジェントオート**（p.50）
- **ストロボ発光禁止**（p.55）
- **クリエイティブオート**（p.56）

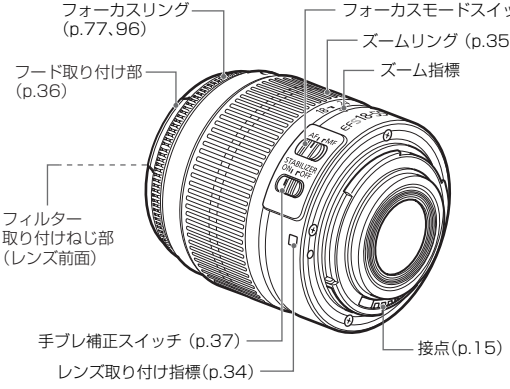
動画撮影（p.97）

イメージゾーン

- ：ポートレート（p.59）
- ：風景（p.60）
- ：クローズアップ（p.61）
- ：スポーツ（p.62）
- ：夜景ポートレート（p.63）

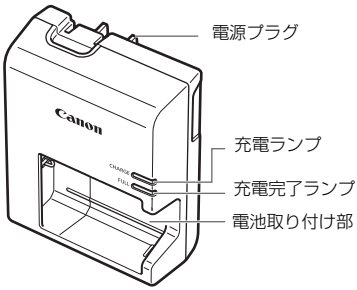
レンズ

距離目盛が付いていないレンズの例



バッテリーチャージャー LC-E10

バッテリーパック LP-E10の充電器です（p.24）。



注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

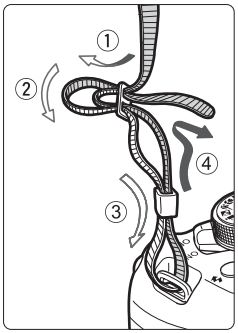
Li-ion

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

1

撮影前の準備と操作の基本

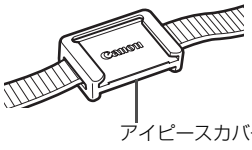
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。



ストラップ（吊りひも）の取り付け方

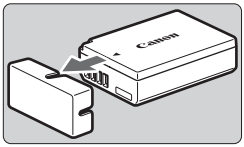
ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています。



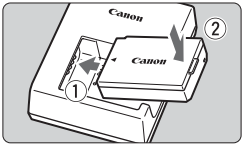
アイピースカバー

電池を充電する



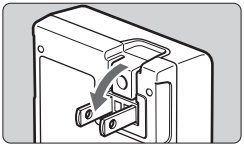
1 保護カバーを外す

● 付属の保護カバーを外します。



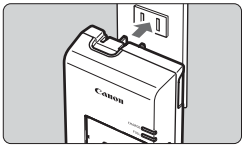
2 電池を取り付ける

● 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
● 取り外しは逆の手順で行います。



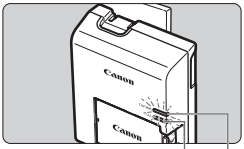
3 電源プラグを起こす

● 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。



4 充電する

● プラグをコンセントに差し込みます。
➡ 充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点灯します。
➡ 充電が完了すると、充電完了ランプが緑色に点灯します。



● **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間です。なお、充電時間は、周囲の温度や残容量によって大きく異なります。**
● 安全に充電を行うために、低温下（+6℃～+10℃）では、充電時間が長くなります（最長約4時間）。

電池と充電器の上手な使い方

● **購入時、電池はフル充電されていません**
充電してからお使いください。

● **充電は、使用する当日か前日にする**
充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

● **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

● **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバー（付属）を取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

● **充電器は海外でも使うことができる**
充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

● **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
新しい電池をお買い求めください。

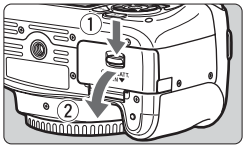
● 充電器をコンセントから取り外したときは、約3秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
● バッテリーパック LP-E10以外は充電しないでください。
● バッテリーパック LP-E10は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

電池とカードを入れる／取り出す

充電したバッテリーパック LP-E10をカメラに入れます。カード（別売）は、SD/SDHC/SDXCメモリーカードが使えます。撮影した画像はカードに記録されます。

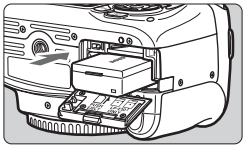
カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

入れ方



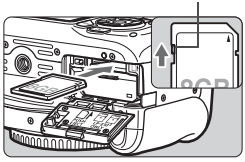
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。



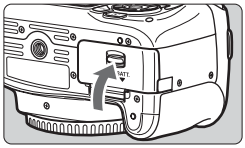
2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。



3 カードを入れる

- **図のように、カードの表をカメラの背面側にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。**



4 ふたを閉める

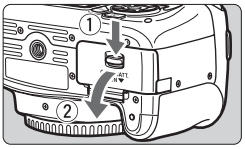
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。
- 電源スイッチを〈**ON**〉にすると、液晶モニターに撮影可能枚数（p.30）が表示されます。

カード/電池室ふたは、開いた状態から無理に押し開かないでください。ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。

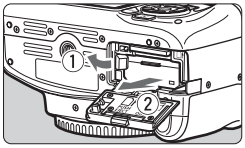
- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- [**1：カードなしレリーズ**]を[**しない**]に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます。

取り出し方

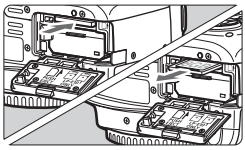
1 電源スイッチを〈OFF〉にする
（p.29）



2 ふたを開ける
- **アクセスランプが消えていることを確認して、ふたを開きます。**
- [**書き込み中...**]と表示されたときは、ふたを閉じてください。



3 電池を取り出す
- 電池ロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー（付属／p.24）を取り付けてください。



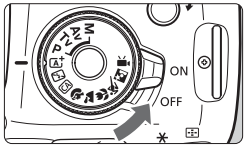
4 カードを取り出す
- カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
- カードをまっすぐ取り出します。

5 ふたを閉める
- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カード/電池室ふたを開けないでください。**
  また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。
  ・カードを取り出す
  ・電池を取り出す
  ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください(p.44)。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。

電源を入れる

電源を入れたときに、**日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、31ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。**



〈**ON**〉：カメラが作動します。
〈**OFF**〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

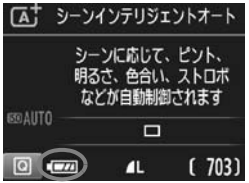
MENU オートパワーオフについて

- 電池の消耗を防ぐため、約30秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを半押し（p.39）すると、もう一度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、［**1：オートパワーオフ**］で変更することができます（p.110）。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、［**書き込み中...**］が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

電池チェックについて

電池の残量は、電源を入れたときに、4段階で表示されます。



- : 電池の残量は十分です。
- : 電池の残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
- : まもなく電池切れになります。（点滅表示）
- : 電池を充電してください。

撮影可能枚数の目安　（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	600	580
50%ストロボ撮影	500	410

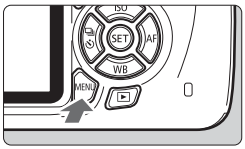
● フル充電のバッテリーパック LP-E10使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

● 下記の操作を行うと、電池が早く消耗します。
  ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  ・AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
  ・液晶モニターを頻繁に使用する
● 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
● レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、電池が早く消耗することがあります。
● ライブビュー撮影時の撮影可能枚数については、89ページを参照してください。

MENU 日付／時刻／エリアを設定する

初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されますので、以下の操作手順に従って、エリアから設定してください。住んでいるエリア（地域）を設定しておくと、他の地域に旅行したときは、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日時に自動的に変更されます。

撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。



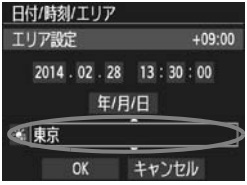
1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。



2 ［2］タブの［日付/時刻/エリア］を選ぶ

● 〈◄〉〈►〉を押して［2］タブを選びます。
● 〈▲〉〈▼〉を押して［**日付/時刻/エリア**］を選び、〈(SET)〉を押します。



3 エリアを設定する

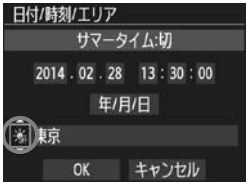
● **初期状態では［ロンドン］に設定されています。**
● 〈◄〉〈►〉を押してエリアの欄を選びます。
● 〈(SET)〉を押して、〈☆〉の状態にします。
● 〈▲〉〈▼〉を押してエリアを選び、〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

● メニュー機能の設定操作は、42、43ページを参照してください。
● 手順3で画面の右上に表示される時間は、協定世界時との時差です。設定したいエリアがないときは、時差を参考にエリアを選択してください。



4 日付/時刻を設定する

- 〈◄〉〈►〉を押して項目を選びます。
- 〈(SET)〉を押して、〈☆〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押して設定し、〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。



5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◄〉〈►〉を押して［☀off］を選びます。
- 〈(SET)〉を押して、〈☆〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押して［☀］を選び、〈(SET)〉を押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順4で設定した時刻が、1 時間進みます。［☀off］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。



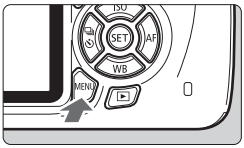
6 設定を終了する

- 〈◄〉〈►〉を押して［OK］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。

以下の条件の場合、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
・カメラから電池を取り出して保管したとき
・カメラの電池残量がなくなったとき
・カメラを氷点下に長時間放置したとき

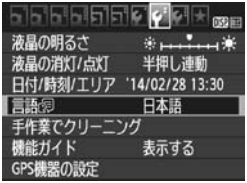
- 設定した日付/時刻のカウントは、手順6で〈(SET)〉を押したときに始まります。
- エリア設定を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

MENU 表示言語を選ぶ



1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。



2 [2] タブの [言語] を選ぶ

● 十字キーの〈◄〉〈►〉を押して［2］タブを選びます。

● 十字キーの〈▲〉〈▼〉を押して、［言語］を選び、〈SET〉を押します。





3 言語を設定する

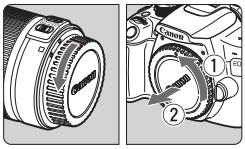
● 十字キーの〈▲〉〈▼〉を押して言語を選び、〈SET〉を押します。

➡ 表示言語が切り換わります。

レンズを取り付ける／取り外す

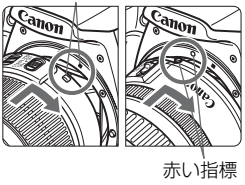
すべてのEFレンズ（EF-Sレンズを含む）を使用することができます。**なお、EF-Mレンズは使用できません。**

取り付け方



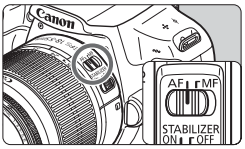
1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 レンズを取り付ける

- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。



3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

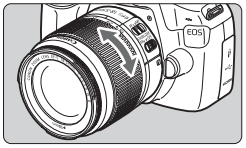
- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせの略です。
- 〈**MF**〉（Manual Focus：手動ピント合わせ）になっていると自動ピント合わせができません。

4 レンズキャップを外す

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

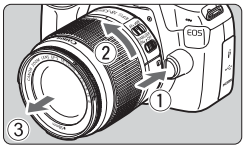
ズーム操作について



ズーム操作は、レンズのズームリングを手で回します。

ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方



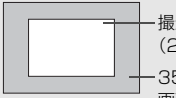
レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈**OFF**〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

撮影画角について

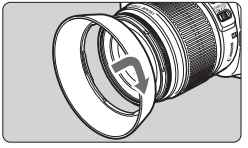
撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。



フードの取り付け方

レンズフードを取り付けると、有害な光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどのレンズ前面への付着を軽減することができます。なお、レンズをバッグなどに収納するときは、フードを逆向きに取り付けることもできます。

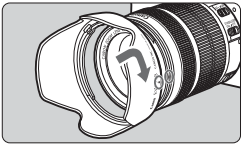
● **レンズとフードに取り付け指標が「ない」場合**



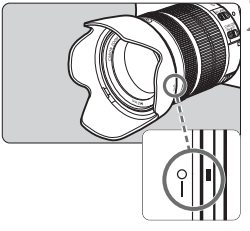
フードを取り付ける

● フードを矢印の方向に回して、確実に取り付けます。

● **レンズとフードに取り付け指標が「ある」場合**



1 フードの赤いマークと、レンズ先端の赤い指標を合わせ、矢印の方向に回す



2 図の位置まで回す

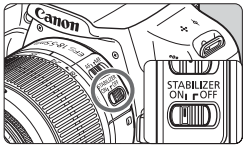
● フードを時計方向に回して、確実に取り付けます。

● フードが正しく取り付けられていないと、フードにより画面の周囲がケラレて暗くなることがあります。
● フードの取り付け／取り外しを行うときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。
● カメラの内蔵ストロボを使用するときはフードを外してください。ストロボ光にケラレが生じることがあります。

レンズの手ブレ補正機能について

手ブレ補正機能を内蔵したレンズを使用すると、撮影するときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正して、鮮明な写真を撮ることができます。EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II レンズを例にして、手ブレ補正機能の説明をします。

＊ ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。



1 手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

● カメラの電源スイッチも〈**ON**〉にしておきます。

2 シャッターボタンを半押しする

➡ 手ブレ補正機能が働きます。

3 撮影する

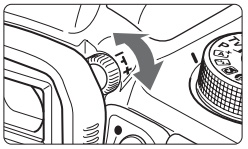
● ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

● 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
● バルブ撮影時は、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にしてください。〈**ON**〉で撮影すると、手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
● 大きく揺れ動く乗り物などから撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

● 手ブレ補正機能は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉〈**MF**〉のどちらでも働きます。
● 三脚使用時に手ブレ補正スイッチが〈**ON**〉でも問題なく撮影できますが、電池の消耗を防ぐため、手ブレ補正スイッチを〈**OFF**〉にすることをおすすめします。
● 一脚を使用した撮影でも、手ブレ補正効果が得られます。
● 手ブレ補正機能付きレンズの中には、撮影状況に応じて手ブレ補正機能のモードを任意に切り換えることができるレンズがありますが、EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS IIでは、モード切り換えは自動的に行われます。

撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する



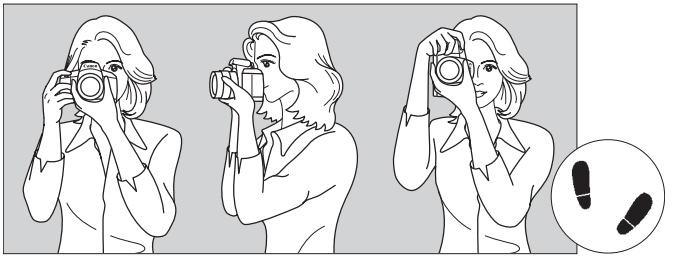
視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレーム（9つの四角い枠）が最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。

視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、別売の視度補正レンズEの使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



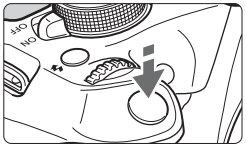
横位置　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

液晶モニターを見ながら撮影するときは、87ページを参照してください。

シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。

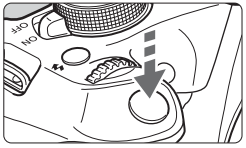


半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内に表示されます（☆4）。

シャッターボタン半押し中は、液晶モニターが消灯します（p.114）。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

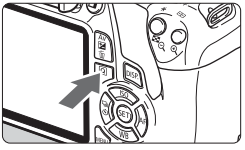
手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

Q 撮影機能のクイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。



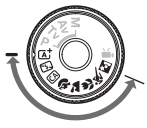
1 〈Q〉ボタンを押す

➡ クイック設定の状態になります（⏱10）。

2 機能を設定する

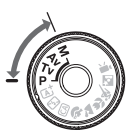
- 〈✣〉十字キーを押して機能を選びます。
  ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.47）が画面に表示されます。
- 〈⚙〉を回して設定を変更します。

かんたん撮影ゾーン





応用撮影ゾーン



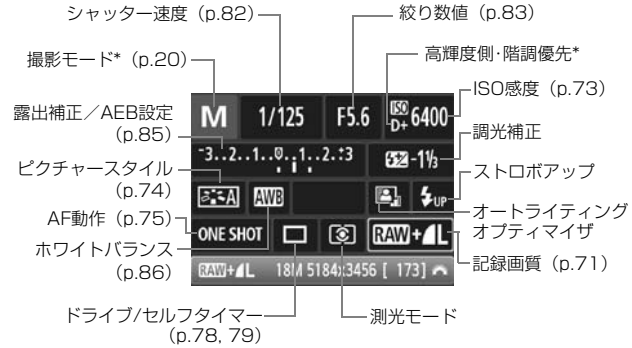


3 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
  ➡ 撮影した画像が表示されます。

かんたん撮影ゾーンで設定できる機能と設定方法については、65ページを参照してください。

クイック設定の画面例



● *印の機能は、クイック設定できません。
● 〈⚡UP〉を選んで〈SET〉を押すと、内蔵ストロボが上がります。

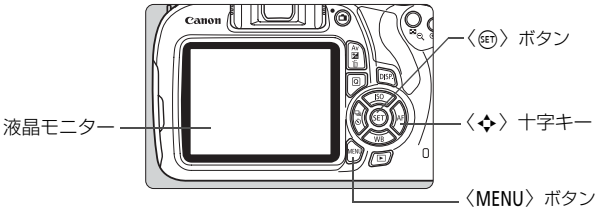
設定画面について



● 機能を選び〈SET〉を押すと、その機能の設定画面が表示されます。
● 〈◄〉〈►〉または〈⚙〉で設定を変更します。さらに、〈DISP.〉ボタンを押して設定する項目もあります。
● 〈SET〉を押すと設定され、クイック設定の画面に戻ります。

MENU メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。



メニュー画面

撮影モードによって、表示されるタブやメニュー項目は異なります。

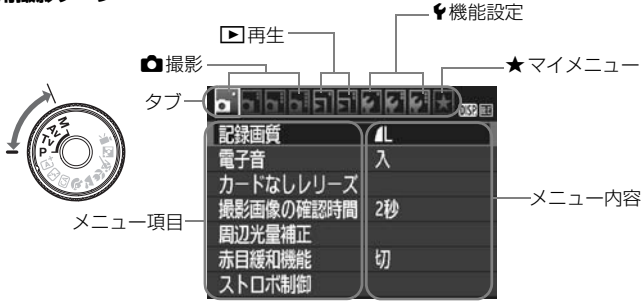
かんたん撮影ゾーン



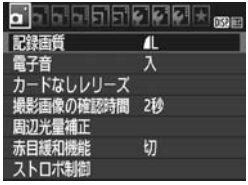
動画撮影モード



応用撮影ゾーン



メニュー機能の設定操作



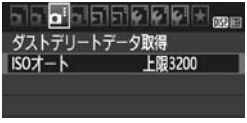
1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

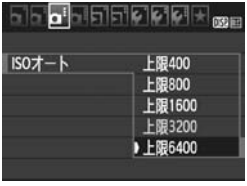
● 〈◄〉〈►〉を押してタブ（系統）を選びます。

● 例えば、本文中の［3］タブは、（撮影）タブの左から3番目〔〕を選んでいる画面のことです。



3 項目を選ぶ

● 〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈㊾〉を押します。



4 内容を選ぶ

● 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉で内容を選びます。（〈▲〉〈▼〉で選ぶ内容と、〈◄〉〈►〉で選ぶ内容があります）

● 現在設定されている内容は青色で表示されます。



5 内容を設定する

● 〈㊾〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

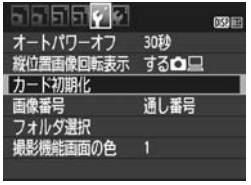
● 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定状態に戻ります。

● 手順2は〈〉を回してタブを選ぶこともできます。
● これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
● 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

MENU カードを初期化する

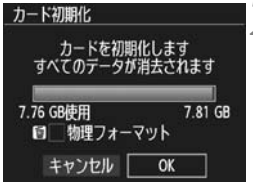
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）を行ってください。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。



1 ［カード初期化］を選ぶ

● ［1］タブの［**カード初期化**］を選び、〈SET〉を押します。



2 初期化する

● ［OK］を選び〈SET〉を押します。

➡ カードが初期化されます。

➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。



● 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に〈✓〉が付いた状態で［OK］を選びます。

こんなときに［カード初期化］を行います

- 新しく買ってきたカードを使うとき
- 他のカメラやパソコンで初期化されたカードを使うとき
- カードの中が画像やデータでいっぱいになったとき
- カードに関するエラーが表示されたとき（p.127）

物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、カードへの記録／読み出し速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりもやや時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［**キャンセル**］を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

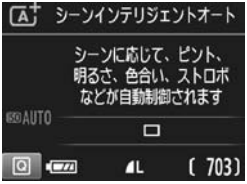
- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイルの管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、物理フォーマットを行ったり、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- **新しいEye-Fiカードを使用するときは、カード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラでカードを初期化してください。**

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

液晶モニターの表示切り換え

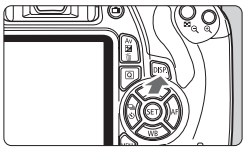
液晶モニターには、撮影機能の設定状態や、メニュー機能、撮影した画像などを表示させることができます。

撮影機能の設定状態



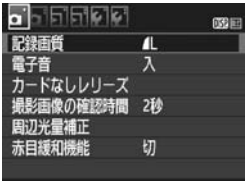
● 電源を入れると、撮影機能の設定状態が表示されます。

● **シャッターボタンを半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。**



● **〈DISP.〉ボタンを押して表示を消すこともできます。**もう一度押すと表示されます。

メニュー機能



● 〈MENU〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、撮影機能の設定状態の表示に戻ります。

撮影した画像



● 〈▶〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、撮影機能の設定状態の表示に戻ります。

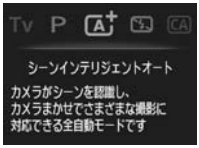
● [**2：液晶の消灯/点灯**]で、撮影機能の設定状態の表示が、消えたり点いたりしないようにすることができます（p.114）。

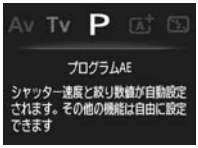
● メニュー機能や撮影した画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、すぐに撮影することができます。

機能ガイドについて

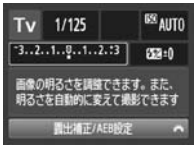
撮影モードを変更したときや、撮影機能、ライブビュー撮影、動画撮影、再生時のクイック設定時に、撮影モードや機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）が画面に表示されます。クイック設定のときは、機能・項目を選ぶと説明が表示されます。表示中に操作を続けると説明は消えます。

● **撮影モード**（例）





● **クイック設定**（例）



撮影機能



ライブビュー撮影



再生

MENU 機能ガイドを表示しないようにする



［機能ガイド］を選ぶ

- ［2］タブの［**機能ガイド**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**表示しない**］を選び〈SET〉を押します。

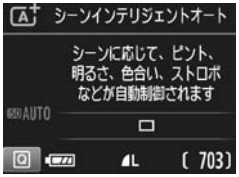


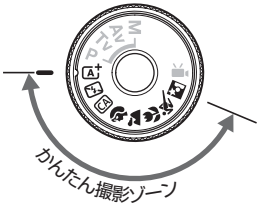
2

かんたん撮影と画像確認

この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法と、撮影した画像の確認方法を説明しています。

かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます(p.66)。また、誤操作による失敗を防ぐため、複雑な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。





オートライティングオプティマイザ機能について

かんたん撮影ゾーンでは、撮影結果に応じて、画像を好ましい明るさ、コントラストに自動補正するオートライティングオプティマイザ機能が働きます。応用撮影ゾーンでも初期状態で機能します。

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます（p.53）。

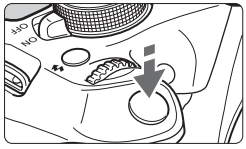


1 モードダイヤルを〈A+〉にする



2 被写体（写したいもの）にAFフレームを合わせる

- すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントを合わせます。
- 中央のAFフレームを被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレーム内の点が一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。





4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が2秒間表示されます。
- 撮影を終了するときは、内蔵ストロボを手で押し下げて収納します。

〈全自動〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、応用撮影ゾーンで、〈SCN〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（p.74）。

こんなときは

● 合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない

明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.39）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● 複数のAFフレームが同時に光る

赤く光ったすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも光っているときは、そのまま撮影してください。

● 電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントの合った写真を撮ることができます。

なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影（p.53）はできません。

● シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **明るい日中なのにストロボ撮影になった**

逆光状態の撮影では、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。ストロボを発光させたくないときは、発光禁止モードをお使いください（p.55）。ストロボの設定以外は、〈A+〉と同じ設定で撮影されます。

● **ストロボが発光して、かなり明るい写真になった**

被写体から離れて撮影してください。ストロボ撮影時に、被写体が近いと、かなり明るい写真になることがあります。

● **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**

AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離の目安は4m以内です。

● **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**

写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。被写体から離れて撮影してください。また、レンズの先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）

構図を変えて撮影する



シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

〈〉モードでは、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈〉を除く）。

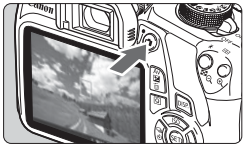
動いているものを撮影する



〈〉モードでは、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます（電子音が小さく鳴り続けます）。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

ライブビュー撮影について

液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。詳しくは、87ページを参照してください。



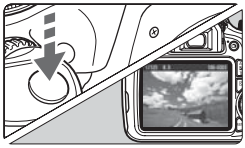
1 液晶モニターに映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



2 ピントを合わせる

- 画面中央のAFフレーム〈□〉を被写体に合わせます。
- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。



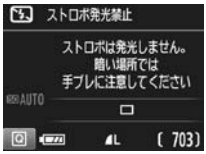
3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈📷〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

ストロボが使えない場所で写す

カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。美術館や水族館など、ストロボ撮影が禁止されている場所では、〈〉（ストロボ発光禁止）を使用します。また、キャンドルライトなど、独特の明かりの雰囲気を効果的に写したいときにも使用します。







撮影のポイント

● **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

● **人物も写真に入れるときは**

暗い場所では、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

CA クリエイティブオートで撮る

〈CA〉モードでは、ピントが合う範囲やドライブ/セルフタイマー、ストロボの発光を簡単な操作で変えることができます。また、どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを、選んで撮影することができます。なお、初期状態の設定は、〈A+〉モードと同じです。

＊ CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。



1 モードダイヤルを〈CA〉にする



2 〈Q〉ボタンを押す（ぢ10）

➡ クイック設定の状態になります。

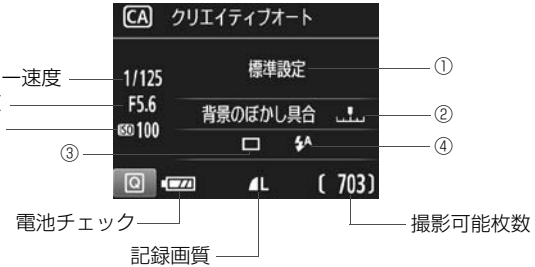


3 機能を設定する

- 〈✣〉十字キーを押して機能を選びます。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.47）が画面に表示されます。
- 機能の設定方法と内容については、57、58ページを参照してください。

4 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。



〈Q〉ボタンを押すと、次の設定ができるようになります。

①雰囲気を選んで撮影

どんな雰囲気に写真を仕上げたいかを選んで撮影することができます。〈◄〉〈►〉または〈 〉で選ぶことができます。〈(SET)〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。

②背景をぼかす／くっきりさせる



カーソルを左に動かして撮影すると、被写体の背景がぼけた写真になります。右に動かして撮影すると、被写体の背景がくっきりした写真になります。背景をぼかしたいときは、59ページの『人物を写す』を参考にして撮影します。〈◄〉〈►〉または〈 〉で選ぶことができます。

なお、使用レンズや撮影条件によっては、ぼけた写真にならないことがあります。また、ストロボが上がっている状態で、〈ϟA〉または〈ϟ〉が選択されているときは、設定できません（灰色表示）。ストロボ撮影時は設定が無効になります。

③ **ドライブ/セルフタイマー**：〈SET〉を押して、〈◄〉〈►〉または〈☁〉で設定します。

〈□〉**1枚撮影**　：1枚だけ撮影します。

〈□□〉**連続撮影**　：シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。1秒間に最高約3枚の連続撮影を行うことができます。

〈ⓢ〉**セルフタイマー：10秒**：
シャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。

〈ⓢc〉**セルフタイマー：連続撮影**：
〈▲〉〈▼〉を押して撮影する枚数（2～10）を設定します。シャッターボタンを押すと、10秒後に設定した枚数を連続撮影します。

④**ストロボの発光**：〈SET〉を押して、〈◄〉〈►〉または〈☁〉で設定します。

〈ϟA〉**ストロボ自動発光**　：必要に応じて自動的に発光します。

〈ϟ〉**ストロボ発光**　：常時ストロボが発光します。

〈ⓢ〉**ストロボ発光禁止**　：ストロボは発光しません。

外部ストロボ使用時は、［**ストロボの発光**］は設定できません。

〈ⓢ〉については、55ページの『ストロボが使えない場所で写す』を参考に撮影してください。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈🧑〉（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。







撮影のポイント

● **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

● **望遠レンズを使用する**

ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

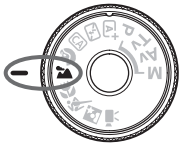
● **顔にピントを合わせる**

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、目に合わせると効果的です。

● シャッターボタンを押し続けると、連続撮影（1秒間に最高約3枚）して表情やポーズの変化を写すことができます。
● 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に発光します。

風景を写す

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏔〉（風景）を使用します。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。







撮影のポイント

● **ズームレンズは広角側にする**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

● **夜景を撮影するときは**

〈🏔〉はストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

なお、人物と夜景の両方をきれいに写したいときは、モードダイヤルを〈🌃〉（夜景ポートレート）に設定し、三脚を使用して撮影します（p.63）。



逆光や暗い場所でもストロボは発光しません。

花や小物を大きく写す

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、〈🌷〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。







撮影のポイント

● **すっきりした背景を選ぶ**

背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

● **写したいものにできるだけ近づく**

最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈🌷**0.25m/0.8ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。

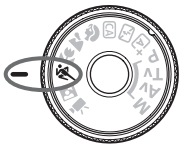
ストロボが発光して、画像の下側が不自然に暗くなった場合は、少し離れて撮りなおしてください。

● **ズームレンズは望遠側にする**

ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

動きのあるものを写す

人の走っている姿や乗り物など、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏃〉（スポーツ）を使用します。







撮影のポイント

● **望遠レンズを使用する**

遠くからでも撮影できるように、できるだけ望遠レンズを使用します。

● **中央のAFフレームでピントを合わせる**

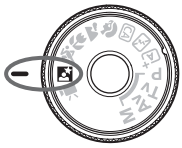
ファインダー中央のAFフレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影（1秒間に最高約3枚）して動きの変化を写すことができます。

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。

夜景と人物を明るく写す

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈🌃〉（夜景ポートレート）を使用します。三脚の使用をおすすめします。







撮影のポイント

● **広角レンズと三脚を使用する**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

● **画像の明るさを確認する**

暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。

なお、撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

● **〈🅐⁺〉（シーンインテリジェントオート）でも撮影しておく**

ブレた写真になりやすいので、〈🅐⁺〉でも撮影しておくことをおすすめします。

ライブビュー撮影時、夜景など、点状の光源ではピントが合いにくいことがあります。このようなときは、AF方式を［**クイックAF**］に設定して撮影することをおすすめします。それでもピントが合いにくいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動でピントを合わせてください。

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

Q クイック設定について

かんたん撮影ゾーンで、撮影機能の設定状態が表示されているときに、〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定状態になり、次ページの表に示した項目が設定できるようになります。

1 モードダイヤルをかんたん撮影ゾーンにする

例：ポートレートモード



2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。



3 機能を設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して機能を選びます（A+/🎨ではこの操作は不要）。
- ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.47）が画面に表示されます。
- 〈◀〉〈▶〉または〈🎛〉で設定を変更します。

かんたん撮影ゾーンで設定できる機能

●：初期設定　○：選択可能　□：選択不可

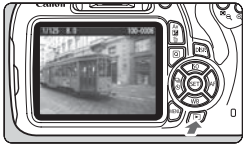
項目		(p.50)	(p.55)	(p.56)	(p.59)	(p.60)	(p.61)	(p.62)	(p.63)
ドライブモード	□：1枚撮影	○	○	○		○	○		○
	：連続撮影			○	○			○	
	セルフタイマー ：10秒	○	○	○	○	○	○	○	○
	セルフタイマー ：連続撮影*	○	○	○	○	○	○	○	○
ストロボの発光	：自動発光	●		●	●		●		●
	：常時発光			○					
	：発光禁止		●	○		●		●	
雰囲気を選んで撮影				○	○	○	○	○	○
明かりや状況にあわせて撮影					○	○	○	○	
背景：ぼかす/くっきり（p.57）				○					

* 連続撮影枚数は、〈▲〉〈▼〉で設定してください。

撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、初期設定に戻ります（セルフタイマーの設定を除く）。

▶ 画像を再生する

ここでは、一番手軽に画像を再生する方法を説明します。



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

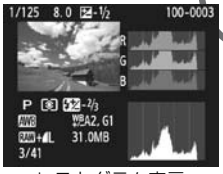
- 〈◀〉を押すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。
  〈▶〉を押すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。



簡易情報表示



簡易情報＋画質/番号表示



ヒストグラム表示



撮影情報表示

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影機能の設定状態に戻ります。



3

カメラまかせから一歩進んだ撮影

かんたん撮影ゾーンでは、失敗を防ぐため、複雑な機能の変更ができないようになっていましたが、〈**P**〉（プログラムAE）モードでは、さまざまな機能を組み合わせ、一歩進んだ思いどおりの撮影を行うことができます。

- 〈**P**〉モードでは、標準露出になるように、シャッター速度と絞り数値が自動的に設定されます。
- この章で説明する機能は、4章で説明する〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モードでも、組み合わせて使用することができます。
- ページタイトル右の応用マークは、応用撮影ゾーン（p.20）限定の機能であることを示しています。

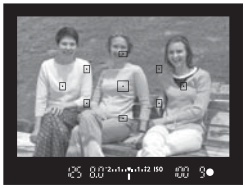
＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。
＊**AE**は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。



1 モードダイヤルを〈P〉にする



2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいて、選択した AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと、ピント合わせを行った AF フレーム内の点が一瞬赤く光り、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。
- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内に表示されます。



3 表示を確認する

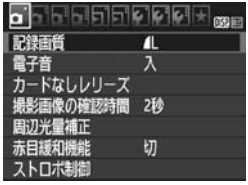
- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

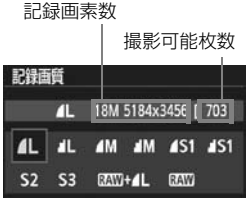
MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と、その画質を選ぶことができます。記録画質は、**◢L**、**◢L**、**◢M**、**◢M**、**◢S1**、**◢S1**、**S2**、**S3**、**RAW**+**◢L**、**RAW**の10種類です。



1 記録画質を選ぶ

- [📷1] タブの［**記録画質**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ［**記録画質**］が表示されます。



2 記録画質を設定する

- 画面上に表示される「記録画素数」と、「撮影可能枚数」を目安に選び、〈SET〉を押します。

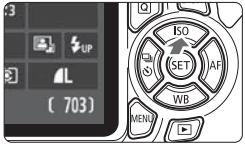
記録画質を選ぶときの目安（約）

記録画質			記録画素数	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
◢L	高画質	JPEG	約1790万（18M）	6.4	1110	69
◢L				3.2	2190	2190
◢M	中画質		約800万（8.0M）	3.4	2100	2100
◢M				1.7	4100	4100
◢S1	低画質		約450万（4.5M）	2.2	3270	3270
◢S1				1.1	6210	6210
S2			約250万（2.5M）	1.3	5440	5440
S3			約35万（0.3M）	0.3	21060	21060
RAW＋◢L	高画質		約1790万（18M）	24.5+6.4	230	4
RAW				24.5	290	6

* ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**

ISO: 明るさに応じて感度を変える 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンでは、ISO感度が自動設定されます。



1 〈▲ISO〉ボタンを押す

➡ [ISO感度] が表示されます。



2 ISO感度を設定する

- 〈◄〉〈►〉または〈☆〉でISO感度を選び、〈(SET)〉を押します。
- [AUTO] を選ぶと、ISO感度が自動設定されます。

ISO感度を選ぶときの目安

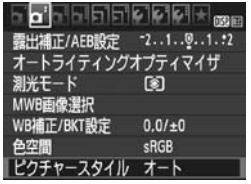
ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります（p.80）。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～6400、H	暗い屋内、夜景	

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

被写体に最適な画像特性を選ぶ 応用 ■

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

かんたん撮影ゾーンでは、ピクチャースタイルの選択はできません。



1 [ピクチャースタイル] を選ぶ

- [2] タブの [**ピクチャースタイル**] を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面になります。

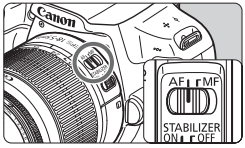


2 スタイルを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押してスタイルを選び、〈(SET)〉を押します。
- スタイルが設定され、メニュー画面に戻ります。

AF: ピント合わせの動作を変える 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AF（Auto Focus：自動ピント合わせ）の作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAF動作が自動設定されます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする



2 〈► AF〉ボタンを押す

➡［**AF動作**］が表示されます。



3 AF動作を選ぶ

● 〈◄〉〈►〉または〈☁〉でAF動作を選び、〈(SET)〉を押します。

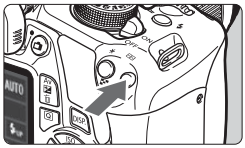
4 ピントを合わせる

● AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定したAF動作でピント合わせが行われます。

ピントを合わせる枠を選ぶ 応用

かんたん撮影ゾーンでは、自動で基本的に一番近くにあるものにピントを合わせるため、思ったところにピントが合わないことがあります。

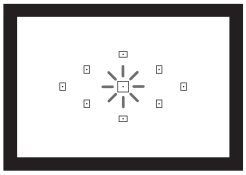
〈**P**〉モードだけでなく、〈**Tv**〉、〈**Av**〉、〈**M**〉モードでは、ピント合わせを行うAFフレーム（枠）を1つ選び、その枠を合わせたところだけにピントを合わせることができます。



1 〈⊡〉ボタンを押す（⏱6）

➡ 現在選択されているAFフレームが、液晶モニターとファインダー内に表示されます。





2 AFフレームを選ぶ

- 〈✥〉十字キーを押してAFフレームを選びます。
- ファインダーをのぞきながらAFフレームを選ぶときは、〈⊙〉を回して赤く光る点を移動させます。
- すべてのAFフレームが点灯しているときは自動選択です。被写体の位置に応じて、自動的にAFフレームが決まります。
- 〈(SET)〉を押すと、中央のAFフレームと自動選択が交互に切り換わります。

3 ピントを合わせる

- 選んだAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。

ピントが合いにくい被写体

次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができない（ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅する）ことがあります。

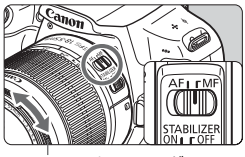
- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  （例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
  （例：反射光の強い車のボディ）
- 遠いところと近いところにある被写体が、AFフレームにかかっている場合（例：おりの中の動物）
- 繰り返し模様の被写体
  （例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）

これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（p.53）。

（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして手動ピント合わせを行う。

MF: 手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）



フォーカスリング

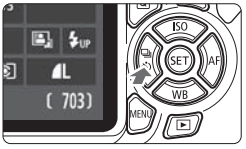
1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

連続撮影する 応用

1秒間に最高約3枚の連続撮影を行うことができます。子どもが走ってくる様子や、表情の変化を写し続けたいときに効果的です。



1 〈◄ 連続 セルフ〉ボタンを押す

2 〈連続〉を選ぶ

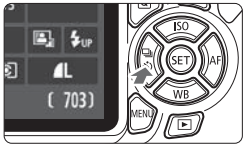
● 〈◄〉〈►〉または〈 〉で連続撮影〈連続〉を選び、〈SET〉を押します。



3 撮影する

● シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影が行われます。

セルフタイマー撮影



1 〈◄ 🔁 🕒〉ボタンを押す

2 セルフタイマーを選ぶ

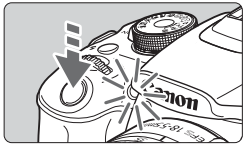
● 〈◄〉〈►〉または〈🎛〉でセルフタイマーを選び、〈(SET)〉を押します。

- 🕒 ：10秒後に撮影
- 🕒2：2秒後に撮影 応用
- 🕒c：10秒後、設定した枚数を連続撮影





〈▲〉〈▼〉を押して、撮影する枚数（2～10）を設定します。



3 撮影する

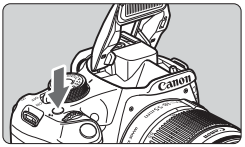
● ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。

➡ セルフタイマーランプと電子音、液晶モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。

➡ 撮影2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

ϟ 内蔵ストロボを使って撮る

室内や暗い場所、日中の逆光状態では、ストロボを上げてシャッターボタンを押すだけで、手軽にきれいな写真を撮ることができます。〈**P**〉では、手ブレしにくいシャッター速度（1/60～1/200秒）が自動設定されます。



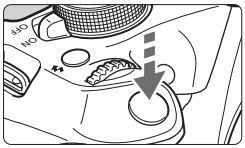
1 〈ϟ〉ボタンを押す

- 応用撮影ゾーンでは〈ϟ〉ボタンを押すと、いつでもストロボ撮影ができます。
- ストロボ充電中は、ファインダー内に「**ϟbuSY**」、液晶モニターに［**BUSYϟ**］が表示されます。



2 シャッターボタンを半押しする

- ファインダーの左下に〈ϟ〉が表示されていることを確認します。



3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、常にストロボが発光します。

ストロボ撮影できる距離の目安　（約・m）

ISO感度（p.73）	EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II	
	広角側：F3.5	望遠側：F5.6
100	1～2.6	1～1.6
200	1～3.7	1～2.3
400	1～5.3	1～3.3
800/AUTO*	1～7.4	1～4.6
1600	1.3～10.5	1～6.6
3200	1.9～14.9	1.2～9.3
6400	2.6～21.0	1.6～13.1
H：12800	3.7～29.7	2.3～18.6

* 日中シンクロ撮影時は、ISO800より感度が低くなることがあります。

4

もっとカメラを使いこなす

この章では、第3章の応用編として、さらにカメラの機能を使って思いどおりの写真を撮るための方法を説明しています。

- 章の前半では、モードダイヤルの〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉を使った撮影方法を説明しています。
- 3章で説明したすべての機能は、〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モードでも、組み合わせて使用することができます。
- ページタイトル右の 応用 マークは、応用撮影ゾーン（p.20）限定の機能であることを示しています。

電子ダイヤルガイドについて







シャッター速度、絞り数値、露出補正などを設定するときに表示される〈 〉は、〈 〉（電子ダイヤル）を回して設定することを示しています。

Tv：被写体の動きを表現する

動きの速い被写体が止まっているような写真や、ブレているような写真、流れているような写真は、モードダイヤルの〈**Tv**〉（シャッター優先AE）を使って撮影します。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



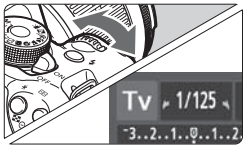
流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）



動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）



1 モードダイヤルを〈Tv〉にする



2 シャッター速度を設定する

● シャッター速度は、〈 〉を右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。



3 撮影する

● ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定したシャッター速度で撮影されます。

Av: ピントの合う範囲を変える

背景をぼかした写真や、手前から遠くまでピントの合った写真など、ピントの合う範囲を調整した写真は、モードダイヤルの〈**Av**〉(絞り優先AE)を使って撮影します。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。



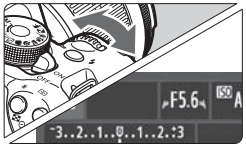
背景をぼかした写真
(小さい絞り数値：F5.6)



背景にもピントの合った写真
(大きい絞り数値：F32)



1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

- 数値が大きいほどピントの合う範囲が前後に広く（深く）なります。
- 数値は、〈〉を右に回すと大きくなり（絞る）、左に回すと小さくなります（開ける）。



3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り数値で撮影されます。

M: 露出を自分で決めて撮る

シャッター速度と絞り数値を自由に組み合わせて撮影することができます。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にして、自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。



1 モードダイヤルを〈M〉にする



〈 〉

〈Av〉＋〈 〉

2 ISO感度を設定する （p.73）

3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈 〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈Av〉ボタンを押しながら〈 〉を回して設定します。

標準露出指標



露出レベルマーク

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内に露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。

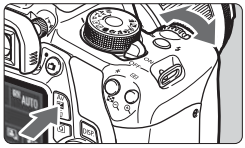
5 露出を決めて撮影する

- 任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±2段を超えるときは、ファインダー内の露出レベル表示の端が〈◖〉または〈◗〉の表示になります（液晶モニターの露出レベル表示は、±3段を超えると、〈**-3**〉または〈**+3**〉の位置で〈▮〉が点滅）。

自分の好みに明るさを調整する 応用

Av± 露出補正を使って撮影する

ストロボを使用しないときの撮影結果が、思いどおりの明るさになっていないときに使用します。この機能は、〈**M**〉以外の応用撮影ゾーンで使用できます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±5段です。



撮影結果が暗いとき
〈Av±〉ボタンを押しながら〈⚙〉を右に回します。（プラス補正）

撮影結果が明るいとき
〈Av±〉ボタンを押しながら〈⚙〉を左に回します。（マイナス補正）

➡ 図のように、液晶モニターとファインダー内の露出レベル表示が動きます。

● **撮影が終わったら、設定をゼロに戻して、露出補正を解除します。**

明るく（プラス）補正



暗く（マイナス）補正





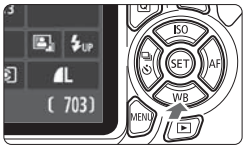
暗めの露出



明るく（プラス）補正

WB: 明かりにあわせて撮影する 応用

白いものが白く写るように、色あいを補正する機能を、ホワイトバランス（WB）といいます。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスが得られます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、明かりの種類にあわせてホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。



1 **〈▼WB〉ボタンを押す**

➡［**ホワイトバランス**］が表示されます。



2 **ホワイトバランスを選ぶ**

- 〈◄〉〈►〉または〈☁〉で項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈☀〉〈🏠〉〈☁〉〈✱〉〈▦〉を選んだときに表示される「約****K」（K：ケルビン）は、設定される色温度です。

5

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

ライブビュー撮影は、被写体との距離が変わらない「静物撮影」に有効です。

カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのようなときは、三脚などの使用をおすすめします。

リモートライブビュー撮影について

EOS用ソフトウェアのEOS Utility（p.134）がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書（p.137）を参照してください。

液晶モニターを見ながら撮影する



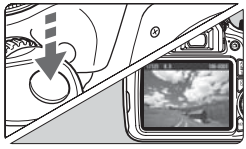
1 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。



2 ピントを合わせる

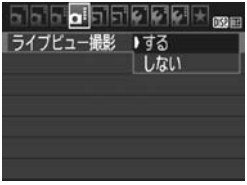
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式（p.91）でピント合わせが行われます。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈📷〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

ライブビュー撮影ができないときは



［**ライブビュー撮影**］を［**する**］に設定します。

かんたん撮影ゾーンでは［**2**］、応用撮影ゾーンでは［**4**］に表示されます。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安　（約・枚）

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	190	180
低温（0℃）	180	170

- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E10使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E10でライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約1時間25分です。

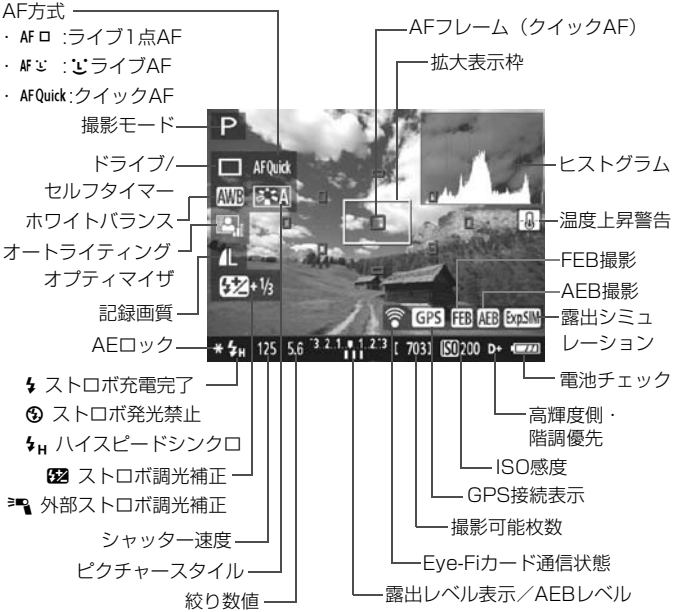
⚠ **警告**

長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

情報表示について

●〈DISP.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

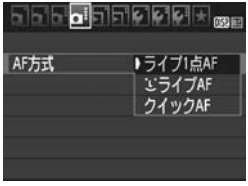


AF でピントを合わせる（AF 方式）

AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。AF方式には、[**ライブ1点AF**]、[**ライブAF**]（顔優先／p.92）、[**クイックAF**]（p.94）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください（p.96）。



AF方式を選ぶ

- [**4**] タブの [**AF方式**] を選びます（かんたん撮影ゾーンは、[**2**] タブ）。
- AF方式を選び、〈SET〉を押します。
- ライブビュー映像表示中に〈Q〉ボタンを押して、クイック設定でAF方式を選ぶこともできます。

ライブ1点AF：AF □

撮像素子を使ってピント合わせを行います。ライブビュー表示のままAFできますが、**「クイックAF」よりもピント合わせに時間がかかります。**また、「クイックAF」よりもピントが合いにくいことがあります。



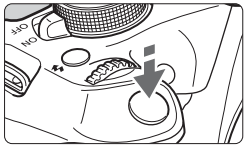
AFフレーム

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈**□**〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈□〉が表示されます。

2 AFフレームを移動する

- 〈✥〉十字キーを押して、AFフレームをピントを合わせたい位置に動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈SET〉を押すと、AFフレームが画面中央に戻ります（C.Fn-9設定時は、〈Av/🗑〉ボタンを押しながら〈SET〉を押す）。



3 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。



4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.88）。

（顔優先）ライブAF：AF

ライブ1点AFと同じAF方式で、人の顔を検知してピント合わせを行います。写される人は、顔をカメラに向けてください。

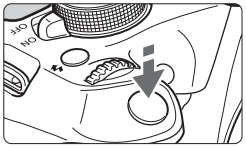


1 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

2 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、ピント合わせを行う〈⬚〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈⬚〉が表示されます。〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい顔に〈⬚〉を合わせます。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、〈[ ]〉の顔にピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わります。
- 顔が検知できないときは、AF フレーム〈□〉が表示され、中央の位置でピント合わせが行われます。



4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.88）。

クイックAF：AF Quick

ファインダー撮影時と同じAF方式で、専用のAFセンサーを使ってワンショットAFでピント合わせを行います。

ピントを素早く合わせることができますが、**AF中はライブビュー表示が一時的に中断されます。**

9点のAFフレームでピント合わせができます（自動選択）。また、ピント合わせを行うAFフレームを1つ選び、その枠を合わせたところだけにピントを合わせることができます（任意選択）。



1 ライブビュー映像を表示する

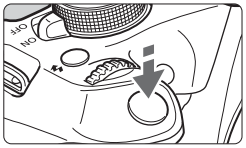
- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- 画面内の小さい枠がAFフレームで、大きい枠が拡大表示枠です。





2 AFフレームを選ぶ 応用

- 〈Q〉ボタンを押して（⏱10）、クイック設定の状態にします。
- ➡ 画面の左側に設定できる機能が表示されます。
- 〈▲〉〈▼〉を押してAFフレームが選択された状態にします。
- 〈⚙〉を回してAFフレームを選びます。





3 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ライブビュー映像が消えてミラーが下がり、AFが行われます（撮影は行われません）。
- ➡ ピントが合うと、ピント合わせに使用したAFフレームが緑色に変わり、ライブビュー表示に戻ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わり点滅します。

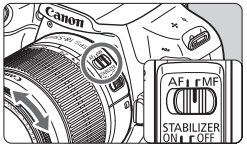


4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.88）。

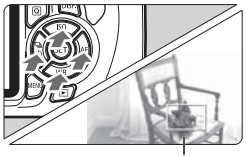
MF：手動でピントを合わせる

映像を拡大表示して、手動で厳密にピントを合わせることができます。



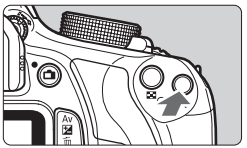
1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

● レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。



2 拡大表示枠を移動する

● ピントを合わせたい場所に、〈✥〉十字キーで拡大表示枠を移動します。
● 〈㊗〉を押すと、画面中央に戻ります（C.Fn-9設定時は、〈Av⊠/🗑〉ボタンを押しながら〈㊗〉を押す）。



3 映像を拡大する

● 〈🔍〉ボタンを押します。
➡ 枠内が拡大表示されます。
● 〈🔍〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→ 5倍 → 10倍 → 通常表示 ┐



4 手動でピントを合わせる

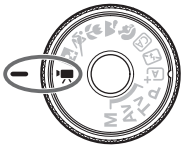
● 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
● ピント合わせが終わったら、〈🔍〉ボタンを押して通常表示にします。

5 撮影する

● ピントと露出を確認し、シャッターボタンを押して撮影します（p.88）。

6

動画を撮影する



モードダイヤルを〈🎥〉にすると、動画撮影ができるようになります。記録形式はMOV形式です。

● 動画が記録できるカードについては、5ページを参照してください。

Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

FULL HD 1080

動画を撮影する

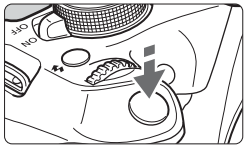
撮影した動画は、カメラをテレビに接続して再生することをおすすめします。

自動露出で撮影する



1 モードダイヤルを〈🎥〉にする

➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。



2 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（p.91～96）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。

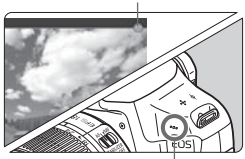


3 動画を撮影する

- 〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が始まり、もう一度〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が終わります。

➡ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。

動画撮影中



マイク

⚠ 警告

長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

情報表示について

●〈DISP.〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。



MENU 動画記録サイズの設定



［**2：動画記録サイズ**］で、動画の画像サイズ［****x****］と、フレームレート［]（1秒間に何コマ記録するか）を選ぶことができます。なお、（フレームレート）は、［**2：ビデオ方式**］の設定により、自動的に切り換わります。

● **画像サイズ**

［1920×1080］（）：フルハイビジョン（Full HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

［1280×720］（）：ハイビジョン（HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

［640×480］（）：標準画質で記録します。画面の横縦比率は 4:3 です。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

／：テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。

／：テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。

：主に、映画関連で使用します。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

動画記録サイズ		総記録時間（約）			ファイルサイズ（約）
		4GBカード	8GBカード	16GBカード	
[1920×1080]	30 25 24	11分	22分	44分	330MB/分
[1280×720]	60 50	11分	22分	44分	330MB/分
[640×480]	30 25	46分	1時間32分	3時間4分	82.5MB/分

● **ファイルサイズが4GBに達したときについて**

ファイルシステムの制約により、動画撮影を開始してからファイルサイズが4GBに達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈📷〉ボタンを押すと動画撮影を再開します（新規ファイルとして記録されます）。

● **撮影時間の制限について**

1回に撮影できる時間は、最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。〈📷〉ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

カメラ内部の温度上昇により、上記の表で示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります。



7

画像の再生

この章では、撮影した画像や動画の基本的な再生方法について説明しています。

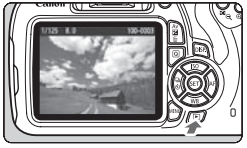
他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

▶ 見たい画像を素早く探す

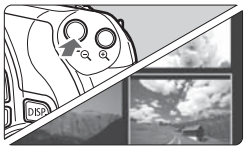
⊠ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚、または9枚の画像を表示することができます。



1 画像を再生する

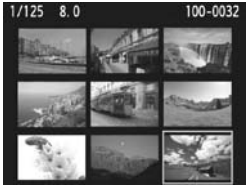
● 〈▶〉ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。



2 インデックス表示にする

● 〈⊠ Q〉ボタンを押します。
➡ 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
● もう一度〈⊠ Q〉ボタンを押すと、9枚表示になります。
● 〈Q〉ボタンを押すと、9枚→4枚→1枚表示になります。



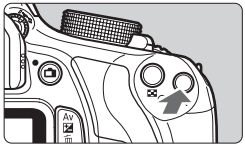


3 画像を選ぶ

● 〈✣〉十字キーでオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
● 〈⌓〉を回すと、1画面分先、または前の画像が表示されます。
● インデックス表示の状態で〈(SET)〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

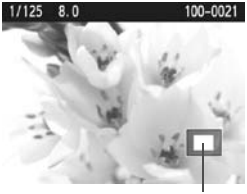
🔍+／🔍− 拡大して見る

撮影した画像を、約1.5倍～10倍に拡大して表示することができます。

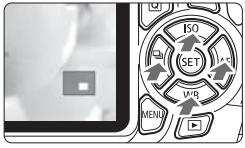


1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で、〈🔍+〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示されます。
- 〈🔍+〉ボタンを押し続けると、最大の拡大率まで連続的に大きくなります。
- 〈🔍−〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、1枚表示まで連続的に小さくなります。

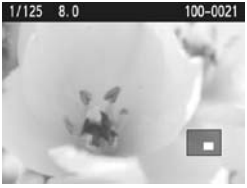


拡大表示位置



2 表示位置を移動する

- 〈✥〉十字キーを操作した方向に表示位置が移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。



- 拡大表示中に〈☆〉を回すと、拡大表示のまま画像が切り換わります。
- 撮影直後に表示された画像は、拡大表示できません。
- 動画は拡大表示できません。

動画を再生する



1 画像を再生する

● 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。





2 動画を選ぶ

● 〈◀〉〈▶〉を押して画像を選びます。
● 1枚表示のときに、画面左上に〈 SET〉が表示されている画像が動画です。ビデオスナップで撮影した動画のときは［ SET］が表示されます。
● インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈㊗〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈㊗〉を押す

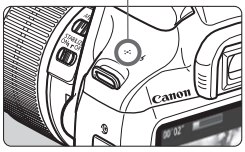
➡ 画面の下側に動画再生パネルが表示されます。



4 動画を再生する

● ［▶］（再生）を選び、〈㊗〉を押します。
➡ 動画再生が始まります。
● 再生中に〈㊗〉を押すと、再生が一時停止します。
● 〈 〉を回すと、再生中でも内蔵スピーカーの音量を調整することができます。
● 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

スピーカー



動画再生パネル

項目	再生内容
⮌ 終了	1枚表示の状態に戻ります。
▶ 再生	〈(SET)〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉を押すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
◀II フレーム戻し	〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻します。〈(SET)〉を押し続けると、早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈(SET)〉を押すたびに1コマ送ります。〈(SET)〉を押し続けると、早送りします。
⏭ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
✂ 編集	編集画面を表示します。
♫ BGM選択*	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます。
▬▬▬	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、ss”：秒）
音量	〈(dial)〉を回すと、内蔵スピーカー（p.106）の音量を調整することができます。

* BGMを設定すると、動画に録音されている音声は再生されません。

消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクトをかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようにプロテクトをかけてください。RAW+◢Lで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去



1 消去したい画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

➡ 画面の下に消去メニューが表示されます。



3 消去する

● [**消去**]を選び〈(SET)〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

8

資料

普段使う上で便利な機能を説明しています。また、「カメラが故障したのかな？」と思ったら、この章を参考にしてカメラをチェックしてください。

認証マークについて
［**3**］タブの［**認証マーク表示**］を選び、〈(SET)〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

普段使う上で便利な機能

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を変更することができます。［**切**］に設定すると、撮影直後に画像は表示されません。［**ホールド**］に設定すると、［**1：オートパワーオフ**］の時間まで画像が表示されます。

なお、画像表示中にシャッターボタン半押しなどのカメラ操作を行うと、表示が終了します。



［**1**］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈㊗〉を押します。内容を選び〈㊗〉を押します。

MENU 電源が切れるまでの時間を設定する

カメラを操作しない状態で放置したときに、節電のために電源が切れるまでの時間を変更することができます。この機能が働いて電源が切れたときは、シャッターボタンを半押しするか、〈MENU〉〈DISP.〉〈▶〉〈**1**〉ボタンなどを押すと電源が入ります。

［しない］に設定したときは、節電のために電源をこまめに切るか、〈DISP.〉ボタンを押して液晶モニターの表示を消すことをおすすめします。

なお、［しない］の設定でもカメラを30分間放置すると、液晶モニターが消灯します。液晶モニターを点灯するときは、〈DISP.〉ボタンを押してください。



［**1**］タブの［**オートパワーオフ**］を選び、〈㊗〉を押します。内容を選び〈㊗〉を押します。

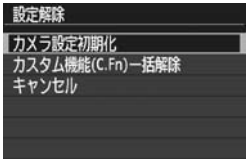
MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。この操作は、応用撮影ゾーンで行うことができます。



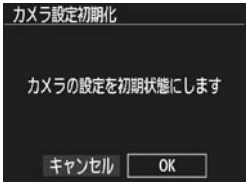
1 ［設定解除］を選ぶ

● ［3］タブの［**設定解除**］を選び、〈SET〉を押します。



2 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

● ［**カメラ設定初期化**］を選び〈SET〉を押します。



3 ［OK］を選ぶ

● ［OK］を選び〈SET〉を押します。

➡ ［**カメラ設定初期化**］を行うと、カメラの設定が次ページのようになります。

? こんなときは

● すべての設定を初期状態に戻したい

上記操作を行ったあと、［3：**設定解除**］で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能をすべて解除できます。

撮影機能

AF動作	ワンショットAF
AFフレーム選択	自動選択
ドライブ/セルフタイマー	□（1枚撮影）
測光モード	⦿（評価測光）
ISO感度	AUTO（オート）
ISOオート	上限3200
露出補正／AEB	解除
ストロボ調光補正	0（ゼロ）
カスタム機能	そのまま

画像記録

記録画質	◢L
ピクチャースタイル	オート
オートライティングオプティマイザ	標準
周辺光量補正	する／登録レンズ保持
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB（オート）
MWB画像選択	解除
WB補正	解除
WB-BKT	解除
画像番号	通し番号
ダストデリートデータ	消去

カメラ設定

オートパワーオフ	30秒
電子音	入
カードなしレリーズ	する
撮影画像の確認時間	2秒
ヒストグラム	輝度
での画像送り	（10枚）
縦位置画像回転表示	する
液晶の明るさ	
液晶の消灯/点灯	半押し連動
日付/時刻/エリア	そのまま
言語	そのまま
撮影機能画面の色	1
機能ガイド	表示する
著作権情報	そのまま
HDMI機器制御	切
Eye-Fi通信	しない
マイメニューの内容	そのまま
マイメニューから表示	しない

ライブビュー撮影

ライブビュー撮影	する
AF方式	ライブ1点AF
グリッド	表示しない
アスペクト比	3：2
測光タイマー	8秒

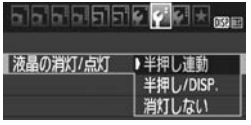
動画撮影

動画撮影モード	自動露出
AF方式	ライブ1点AF
動画記録中のシャッターボタンAF	しない
シャッターボタン/AEロックボタン	AF/AEロック
高輝度側・階調優先	しない
動画記録サイズ	1920×1080
録音	オート
測光タイマー	8秒
グリッド	表示しない
ビデオスナップ	撮影しない
ビデオ方式	そのまま
露出補正	解除
オートライティングオプティマイザ	標準
MWB画像選択	解除
ピクチャースタイル	オート

GPS使用時の設定については、お使いのGPSの使用説明書を参照してください。

MENU 液晶モニターの消灯/点灯の設定

撮影機能の設定状態（p.46）の表示が、シャッターボタンの半押しに連動して、消えたり点いたりしないようにすることができます。



［4 2］タブの［**液晶の消灯/点灯**］を選び、〈(SET)〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈(SET)〉を押します。

- **［半押し連動］**：半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。
- **［半押し/DISP.］**：半押しすると表示が消え、指を離しても表示されません。〈DISP.〉ボタンを押すと表示されます。
- **［消灯しない］**：半押ししても表示は消えません。消したいときは、〈DISP.〉ボタンを押します。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

電池が充電できない

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E10を使用してください。

充電器のランプが点滅する

- 充電器に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色の充電ランプが点滅します。そのときは、充電器のプラグをコンセントから抜き、電池の取り外し/取り付けを行い、しばらく経ってからもう一度コンセントに差し込んでください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラにきちんと入っているか確認してください（p.26）。
- カード/電池室ふたが閉まっているか確認してください（p.26）。
- 電池を充電してください（p.24）。
- 〈DISP.〉ボタンを押してください（p.46）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使用してください（p.24）。
- 何度も繰り返し使用した電池で消耗が早いときは、新しい電池をお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - ・シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - ・AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - ・レンズの手ブレ補正機能を使う
  - ・液晶モニターを頻繁に使用する
  - ・ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
  - ・Eye-Fiカードの通信機能を有効にしているとき

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、［**1：オートパワーオフ**］を［**しない**］にしてください（p.110）。
- ［**1：オートパワーオフ**］を［**しない**］に設定していても、カメラを30分放置すると、節電のため液晶モニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。〈**DISP.**〉ボタンを押すと液晶モニターが点灯します。

撮影関連

レンズが装着できない

- EF-Mレンズは装着できません（p.34）。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.26）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（p.26）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.26、108）。
- ワンショット AF でピント合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.39、77）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、28ページ、または127ページを参照してください。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.34）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.38、39）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にして撮影してください。
- 暗い場所では、シャッター速度が遅くなることがあります。シャッター速度を速くする（p.82）、ISO感度を上げる（p.73）、ストロボを使用する（p.80）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。AIサーボAF、およびAIフォーカスAFでサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影はできません。

画像に横縞が写る／露出や色あいがおかしい

● 蛍光灯やLED照明などの光源下で、ファインダー撮影、ライブビュー撮影を行うと、横縞（ノイズ）や露出ムラが発生することがあります。また、露出（明るさ）や色あいが適切にならないことがあります。なお、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

標準露出にならない／露出ムラが出る

● ファインダー撮影時またはライブビュー撮影時に、TS-Eレンズ（TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L II を除く）を使用してシフトやティルトを行ったり、エクステンションチューブを使用すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

連続撮影速度が遅い

● レンズの種類やシャッター速度、絞り数値、被写体条件、明るさなどにより、連続撮影速度が低下することがあります。

連続撮影可能枚数が少なくなる

● [**3：カスタム機能 (C.Fn)**] [**5：高感度撮影時のノイズ低減**] を [**0：標準**] [**1：弱め**] [**3：しない**] のいずれかに設定してください。[**2：強め**] に設定されているときは、連続撮影可能枚数（バースト枚数）が大幅に少なくなります。
● WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
● 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1 枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、72ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

ISO100に設定できない

● [3：カスタム機能 (C.Fn)] の [6：高輝度側・階調優先] が [1：する] に設定されているときは、ISO100に設定できません。[0：しない] に設定すると、ISO100が設定できるようになります。

ISO感度 [H] (12800相当) が設定できない

● [3：カスタム機能 (C.Fn)] の [6：高輝度側・階調優先] が [1：する] に設定されているときは、[2：ISO感度拡張] を [1：する] に設定しても、ISO感度 [H] (12800相当) は選択できません。[6：高輝度側・階調優先] を [0：しない] に設定すると、ISO感度 [H] が設定できるようになります。

オートライティングオプティマイザが設定できない

● [3：カスタム機能 (C.Fn)] の [6：高輝度側・階調優先] が [1：する] に設定されているときは、オートライティングオプティマイザは設定できません。[0：しない] に設定すると、オートライティングオプティマイザが設定できるようになります。

露出を暗めに補正したのに、明るく撮影される

● [2：オートライティングオプティマイザ] を [しない] に設定してください。[標準/弱め/強め] に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

〈Av〉モードでストロボ撮影すると、シャッター速度が遅くなる

● 夜景などを背景にした暗い場所で撮影すると、主被写体も背景も適正露出になるように、自動的にシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ撮影）。シャッター速度が遅くならないようにするときは、[3：カスタム機能 (C.Fn)] の [3：Avモード時のストロボ同調速度] を、[1：1/200-1/60秒自動] または [2：1/200秒固定] に設定してください。

内蔵ストロボが勝手に上がる

● 〈ϟᴬ〉（ストロボ自動発光）が、初期設定されている撮影モードでは、必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります（〈A⁺〉〈CA〉〈🏃〉〈🌷〉〈🌄〉）。

内蔵ストロボが発光しない

● 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

ストロボがいつもフル発光する

● EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します。

● ［📷1：**ストロボ制御**］の［**外部ストロボカスタム機能設定**］の［**調光方式**］が［**TTL（自動調光）**］に設定されていると、常時フル発光します。

外部ストロボの調光補正ができない

● 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。外部ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

〈Av〉モードでハイスピードシンクロができない

● ［ϟ3：**カスタム機能（C.Fn）**］の［**3：Avモード時のストロボ同調速度**］を［**0：自動**］に設定してください。

カメラを振ると音がする

● 内蔵ストロボを上げるための機構がわずかに動くためで、故障ではありません。

ライブビュー撮影でシャッター音が2回する

● ストロボ撮影時は、1回の撮影でシャッター音が2回します。

ライブビュー撮影と動画撮影時に、白い🔥または赤い🔥が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈🔥〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈🔥〉が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影、または動画撮影が自動的に終了することを示しています。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。SDスピードクラス6「CLASS 6」以上のカードを使用してください。なお、書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 1カットのファイルサイズが4GBに達した時点、または29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- [📹1：**動画撮影モード**]が[**自動露出**]に設定されていると、ISO感度は自動設定されます。[**マニュアル露出**]に設定すると、ISO感度を任意に設定することができます。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッター速度や絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 開放絞り数値が変化するレンズ、変化しないレンズに関わらず、動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化が記録されることがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

● 動画撮影中にカメラを素早く左右に動かしたり（高速パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

● 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。なお、マニュアル露出のときは、シャッター速度を遅くすると、この現象が緩和されることがあります。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

● かんたん撮影ゾーンと動画撮影モードでは、一部のタブや項目は表示されません。撮影モードを応用撮影ゾーンにしてください（p.42）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

● 色空間をsRGBに設定してください。Adobe RGBに設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります。

ファイル名の先頭文字が「MVI_」になっている

● 動画ファイルです。

画像番号が0001から始まらない

● 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.31）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（p.31）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付 / 時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます。

[###]が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［###］と表示されます。

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温下では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

[Eye-Fi設定] が表示されない

- ［**Eye-Fi設定**］は、Eye-Fiカードを入れているときにだけ表示されます。カードの書き込み禁止スイッチがあるEye-Fiカードでは、スイッチが「LOCK」側になっていると、通信状態を確認したり、Eye-Fi通信をしない設定にする機能が使えません。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

● ハイライト警告表示です。露出オーバーで白飛びした部分が点滅します。

画像を消去できない

● プロテクトがかかっている画像は消去できません。

動画が再生できない

● EOS用ソフトウェアのImageBrowser EXなどを使用して（p.135）、パソコンで編集した動画は、カメラで再生できません。ただし、EOS Video Snapshot Taskで編集したビデオスナップアルバムは、カメラで再生することが可能です。

動画を再生すると操作音や作動音がする

● 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。

動画が一瞬止まって見える

● 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。

カメラをテレビに接続できない

● テレビと接続するには、別売のHDMIケーブルが必要です。HDMIケーブル HTC-100の使用をおすすめします。
● テレビにHDMI入力端子があるか確認してください。HDMI入力端子を備えていない、映像/音声入力端子のみを備えたテレビには接続できません。

テレビに画像が表示されない

● HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。

カードリーダーでカードを認識できない

● SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSの種類により、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。その場合は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、画像を取り込んでください（p.134）。

画像をリサイズできない

● JPEGの **S3** とRAW画像は、カメラでリサイズ処理を行うことはできません。

印刷関連

印刷効果の項目が説明書より少ない

● 表示される内容は、プリンターの機種により異なります。本書ではすべての項目を記載しています。

パソコン接続関連

パソコンに画像が取り込めない

● EOS用のソフトウェア（EOS DIGITAL Solution Disk／CD-ROM）をパソコンにインストールしてください（p.136）。

エラー表示



カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。

番号	メッセージ／対処方法
01	カメラとレンズの通信不良です。レンズの接点を清掃してください
	➔ カメラ/レンズの接点清掃、純正レンズを使用する（p.15、16）
02	カードにアクセスできません。カードを入れなおすか、交換するか、このカメラで初期化してください
	➔ カード抜き差し、カード交換、カード初期化（p.26、44）
04	カードがいっぱいになったため、記録できませんでした。カードを交換してください
	➔ カード交換、不要画像の消去、カード初期化（p.26、108、44）
05	内蔵ストロボをポップアップできませんでした。電源スイッチを入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作（p.29）
10, 20 30, 40 50, 60 70, 80 99	エラーが発生したため撮影できません。電源スイッチを入れなおすか、電池を入れなおしてください
	➔ 電源スイッチ操作、電池出し入れ、純正レンズを使用する（p.29、26）

***上記の対処を行ってもエラーが表示されるときは、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。**



9

使用説明書（CD-ROM）の見かた／パソコンに画像を取り込む

この章では、カメラ使用説明書（CD-ROM）の見かた、パソコンに画像を取り込む方法、EOS DIGITAL Solution Disk（CD-ROM）に収録されている各ソフトウェアの概要、パソコンへのインストール方法、ソフトウェア使用説明書の見かたについて説明しています。



カメラ使用説明書



EOS DIGITAL Solution Disk
（ソフトウェア／ソフトウェア使用説明書）

カメラ使用説明書CD-ROMの見かた



カメラ使用説明書CD-ROM には、下記の使用説明書（PDF形式）が収録されています。

● **カメラ使用説明書**
「基本編」の内容を含む、カメラのすべての機能と操作方法を記載した説明書です。

● **クイックガイド**
基本的なカメラの機能設定と、撮影、再生方法を簡単に説明しています。

カメラ使用説明書CD-ROMの見かた

各使用説明書（PDF ファイル）を見るためには、パソコンにAdobe Reader（バージョン6.0以上）がインストールされている必要があります。Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードすることができます。パソコンにAdobe Readerをインストールしてから、以下の操作を行ってください。

1 パソコンに「カメラ使用説明書」のCD-ROMを入れる



2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

- Windowsでは、［**(マイ) コンピューター**］内に表示されるアイコン
- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されるアイコン
- 表示されるアイコンはパソコンの環境によって異なります。



3 「START」のファイルをダブルクリックする

➡ 手順4に示す画面が表示されます。

● 表示されるアイコンはパソコンの環境によって異なります。

4 見たい使用説明書名をクリックする

● 各言語の下に表示されている説明書名をクリックします。



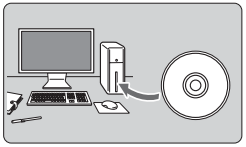
➡ 使用説明書が表示されます。

● PDFファイルはパソコンに保存することができます。
● 各使用説明書（PDFファイル）は、見たいページがすぐに見られるように、ページリンク機能が組み込まれています。目次や索引などでページ番号をクリックすると、そのページへジャンプします。
● Adobe Readerの使い方については、Adobe Readerのヘルプなどを参照してください。

パソコンに画像を取り込む

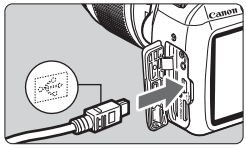
EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、2通りあります。

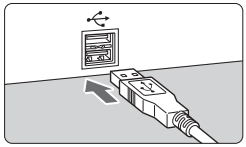
カメラとパソコンを接続して画像を取り込む



1 ソフトウェアをインストールする

（p.136）





2 付属のインターフェースケーブルで、カメラとパソコンを接続する

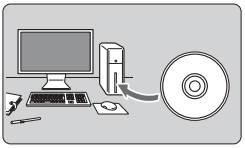
- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈↔〉が、カメラの前面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

3 EOS Utility を使って画像を取り込む

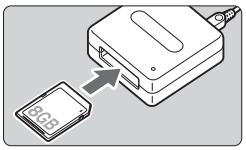
- EOS Utility使用説明書（p.137）を参照してください。

カードリーダーで画像を取り込む

カードリーダーを使って、画像をパソコンに取り込むことができます。



1 ソフトウェアをインストールする
(p.136)



2 カードリーダーにカードを差し込む

3 ソフトウェアを使って画像を取り込む

➡ Digital Photo Professional を使う

➡ ImageBrowser EX を使う

● ソフトウェア使用説明書 (p.137) を参照してください。

EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

ソフトウェアの概要



EOS DIGITAL Solution Disk
（イオス デジタル ソリューション ディスク）

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアは、EOS DIGITAL Solution Diskに収録されています。

EOS Utility
（イオス ユーティリティー）

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。また、EOS Sample Music*などのBGMを、カードにコピーすることができます。

* カメラでビデオスナップアルバム、動画、スライドショーを再生するときのBGMとして楽しむことができます。

Digital Photo Professional
（デジタル フォト プロフェッショナル）

主にRAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像の高速閲覧／編集／現像／印刷などができます。JPEG画像もオリジナル画像を残したままで編集できます。

Picture Style Editor
（ピクチャー スタイル エディター）

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成／保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

イメージブラウザー イーエックス
ImageBrowser EX

インターネットに接続してダウンロード/インストールを行います*。

主にJPEG画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。簡単な操作で、静止画/MOV動画、ビデオスナップアルバムの閲覧・再生・JPEG画像の編集、およびJPEG画像の印刷などができます。

* ImageBrowser EXのダウンロード/インストールには、EOS DIGITAL Solution Diskが必要です。

従来製品に付属していたソフトウェアZoomBrowser EX/ImageBrowser は、このカメラで撮影した静止画ファイル、MOV動画ファイルをサポートしていません（動作対象外）。ImageBrowser EXを使用してください。

ソフトウェアのインストール

- **ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。**
- ImageBrowser EXのダウンロード/インストールは、EOS DIGITAL Solution Diskに収録されている他のソフトウェアと同様、以下の手順で行いますが、インターネットに接続されている必要があります。インターネット非接続の環境では、ダウンロード/インストールはできません。
- お使いのパソコンにすでにImageBrowser EXがインストールされている場合でも、以下の手順に従ってImageBrowser EXをインストールしてください。このカメラの機能に対応した最適なバージョンに更新できます。また、オートアップデート機能により、新しい機能を追加できることがあります。
- ImageBrowser EX以外のソフトウェアについても、旧バージョンがインストールされている場合は、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 パソコンにEOS DIGITAL Solution Diskを入れる

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、［setup］をダブルクリックしてください。

2 ［おまかせインストール］をクリックし、画面の指示に従って操作する

- インストール途中に、“Microsoft Silverlight”インストールの案内画面が表示されたときは、“Microsoft Silverlight”のインストールを行ってください。

3 ［再起動］をクリックし、再起動したらCD-ROMを取り出す

- パソコンが再起動したら、インストール完了です。

ソフトウェア使用説明書



ソフトウェア使用説明書は、EOS DIGITAL Solution Diskに収録されています。ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のコピー方法と見かたは、下記のとおりです。

1 パソコンにEOS DIGITAL Solution Diskを入れる

2 インストール画面を閉じる

- EOS DIGITAL Solution Diskのインストール画面が表示されたときは、インストール画面を閉じます。

3 CD-ROMを開く

4 [Manual] フォルダを開く

5 [Japanese] フォルダをパソコンにコピーする

- 以下の名前の使用説明書PDFファイルがコピーされます。

	Windows	Macintosh
EOS Utility	EUx.xW_J_xx	EUx.xM_J_xx
Digital Photo Professional	DPPx.xW_J_xx	DPPx.xM_J_xx
Picture Style Editor	PSEx.xW_J_xx	PSEx.xM_J_xx

- ImageBrowser EXの使用説明書（ImageBrowser EXガイド）は、ソフトウェア内に格納されています。

6 コピーしたPDFファイルをダブルクリックする

- パソコンにAdobe Reader（最新版推奨）がインストールされている必要があります。
- Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードできます。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、アフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。

故障、不具合、破損の際は、弊社修理受付窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。

⚠ 警告 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしないでください。
  - 指定以外の電池、電源、付属品、変形または改造した電池、破損した製品の使用。
  - 電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中、水中投入、強い衝撃を与えること。
  - 電池の＋－を逆に入れること。
  - 充電可能温度範囲外での電池の充電。または、指定の充電時間を超える充電。
  - カメラ本体、付属品、接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 電池を廃却する時は、接点にテープなどを貼り、絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 電池の充電中、電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等、異常状態が起こった場合、直ちに充電器のプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。火災、発熱、感電の原因になります。
- 液漏れ、変色、変形、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、火傷の原因となります。
- 電池の液が目に入ったり、肌や衣服に付着しないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こす恐れがあります。万一、液が目に入ったり肌や衣服についたときは、こすらずにすぐきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。
- 長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- カメラ及び付属品を使用しないときは、電源プラグ及び電池、接続ケーブルを外して保管してください。感電、発熱、発火、汚損の原因となることがあります。

- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってストラップや電源コードを首に巻きつけて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しないでください。また、電池は、ショートを防ぐため、金属類と一緒の保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管してください。火災、発熱、感電、火傷の原因となります。
- 飛行機内、病院で使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意してください。
  - 電源プラグは確実に奥まで差し込んでください。
  - 濡れた手で電源プラグにさわらないでください。
  - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
  - 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたりしないでください。また、束ねたり、結んだりして使用しないでください。
  - 二股ソケット等を使ったタコ足配線をしないでください。
  - 断線や被覆のはがれたコードは使用しないでください。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電池をコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。
- お子様が使用の時は、保護者が正しい使用方法を充分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。感電、けがの原因となります。
- レンズやレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもり外装が変形し、火災の原因となることがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属等の異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、火傷の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の清掃に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。

⚠注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 直射日光下の車中など、高温の場所で使用、保管しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。また、電池の液漏れ、破裂など、製品の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ、レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- ストロボを目に近付けて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。
- 同梱のCD-ROMをCD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しないでください。音楽用CDプレーヤーで使用した場合は、スピーカーなどを破損する恐れがあります。またヘッドフォンなどをご使用になる場合は、大音量により耳に傷害を負う恐れがあります。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒 108-8011　東京都港区港南 2-16-6

製品情報や取り扱い方法に関するご相談窓口

製品に関する情報や、よくあるお問い合わせなどのサポート情報を掲載しています。
インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

EOS ホームページ：canon.jp/eos
EOS・サポートナビ：canon.jp/eos-navi

電話でのお問い合わせは、以下へお願いします。

お客様相談センター（全国共通番号）
050-555-90002

受付時間：9：00 ～ 18：00
（1 月 1 日～ 1 月 3 日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の弊社修理お問合せ専用窓口にお問い合わせください。

本書の記載内容は 2016 年 3 月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CPH-J103-002
© CANON INC. 2016